

単元のゴール
<ul style="list-style-type: none"> 基本的な回転技や倒立技をすることができるようにする。(技能) マット運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動したり、場や用具の安全に気を付けたりすることができるようにする。(態度) 自己の能力に適した課題をもち、技ができるようにするための活動を工夫できるようにする。(思考・判断)

授業のねらいと指導内容及び願う子供の姿		
時	◎授業のねらい ○指導内容	◆各時間終了後の願う子供の姿
1	◎学習の進め方と前転と後転のポイントを知ろう ○学習の進め方や約束、用具の準備の仕方 ○感覚づくりのポイントと行い方 ○前転と後転のポイント	◆場や用具の安全に気を付けることができる。 ◆感覚づくりの、ポイントを意識して取り組める。
2	◎前転、後転を「スッ」と立てるようにしよう ○すばやくかかとを尻の下に引き寄せる(前転) ○両手でマットを押す(後転)	◆回転が終わる前のタイミングで素早くかかとを尻の方に引き寄せ、立つことができる。
3	◎開脚前転、開脚後転に挑戦しよう ○坂や段差を利用しての開脚前転、開脚後転 ○技を連続させる(後転-開脚後転-後転など)	◆段差等を利用して、開脚後転や開脚前転ができる。
4	◎側方倒立回転に挑戦しよう ○側方倒立回転のポイントを知る ○直線のビニールテープに沿って行う	◆側方倒立回転のポイントを知り、グループで教え合っている。
5	◎側方倒立回転に挑戦しよう ○手型・足型を利用した練習方法 ○グループで見合い、高め合う	◆進んで練習に取り組み、側方倒立回転ができるようになる。
6	◎自分で取り組む技を選び、練習に取り組もう ○技と場を選んだ回転技の練習 ○場を選んだ側方倒立回転の練習	◆自分の力に合った技の動き方やポイントを知り、自分の力にあった課題を選んでいる。
7	◎自分で取り組む技を選び、練習に取り組もう ○技と場を選んだ回転技の練習 ○場を選んだ側方倒立回転の練習	◆技ができるようになるために、練習に進んで取り組もうとしている。
8	◎できるようになった技を発表しよう ○発表の仕方	◆マット運動の楽しさに触れ、マット運動に進んで取り組もうとしている。

単元に係る児童の実態 (技能)

これまで児童は、「マット遊び」の学習を通して、色々な方向にころがったり、手や背中逆立ちしたり、体を反らせてたりする楽しさを味わってきている。前転がりは全ての児童が習得しているが、後ろ転がりについては6名の児童が習得していない。スムーズに回れない児童も多くいる。また、ゆりかごなどの基本的な技能の習得がままならない児童も数名いる。

単元に係る児童の実態 (態度)

体育の授業は好きですか。			
好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば好きではない	好きではない
19	4	1	0
マット運動は好きですか。			
好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば好きではない	好きではない
12	9	2	1
マット運動が、好きな理由・嫌いな理由は何ですか。			
好きな理由	嫌いな理由		
新しい技に挑戦できる。	うまく回れない。		
転がるのが楽しい。など	気持ちが悪くなる。など		

多くの児童は体育が好きだと感じていた。マット運動への興味・関心については、多くの子どもが高く、その理由として、「新しい技に挑戦できる」「転がるのが楽しい」ことなどを挙げている。その反面「うまく回れない」という理由から興味・関心の低い子どももいる。

単元に係る児童の実態 (思考・判断)

児童は、5月に鉄棒運動に取り組んだ。ペアで見合い、友達の技のできばえを伝えることや、つまずいていた技ができるようになった際に見つけたコツを伝えることなどを行ってきた。意欲的に活動していたが、自己の能力に応じた課題を見つけ、技ができるように活動を工夫する児童は少なかった。また、発表や学習カードの記述では、見つけたコツを言葉で伝えることができる児童は少なかった。

単元のゴール (技能)

- 回転系の基本的な技を行うことができる。
- 【前転、後転】
- 【開脚前転、開脚後転】
- 技巧系の基本的な技を行うことができる。
- 【側方倒立回転】
- 【壁倒立、頭倒立】

単元のゴール (態度)

- 技ができるようになるために、練習に進んで取り組もうとしている。
- マット運動のきまりを守り、グループで協力して、自分の試技を見てもらったり、友達にアドバイスをしたりしながら、技の練習をしようとしている。
- 友達と協力して、練習の場を作ろうとしたり、用具の準備や片付けをしようとしている。

単元のゴール (思考・判断)

- 学習カードや資料などをもとに、自分の力にあった技を選び、その技に応じた練習の場や練習方法を選んでいる。
- 自分の力に合った技の動き方やポイントを知り、自分の力にあった課題を選んでいる。

教師の指導観 (技能)

- マット運動に必要な運動感覚をつくるために、感覚づくりの時間を、単元を通して毎時間行うようにする。
- 技のポイントを掲示し、児童がすぐ確認できるようにすることで、技能を高められるようにする。
- グループで活動し、技を見せ合い、アドバイスし合うことで、技の完成度を高めたり、課題をもてるようにしたりする。

教師の指導観 (態度)

- マット運動の学習の進め方や友達とお互いに見合う方法、安全に活動できるように場の準備の仕方や約束を、資料を使いながらわかりやすく指導する。また、感覚づくりの時間で行う運動について、行う理由やポイントを押しやることで、主体的に取り組めるようにする。
- グループの友達に見てもらおう中で「できた」「できなかった」ことを伝え合い、友達の言葉を聞くことで「わかった」につながるようにする。そうすることで、グループで協力して力を合わせてお互いを高めていくことができると思った。
- 挑戦学習では、児童が自己の能力の応じて取り組む技を選択できるようにし、自主的に学習が進められるように単元の後半に位置づける。

教師の指導観 (思考・判断)

- マットを重ねたり、踏み切り板をマットの下に置いたりするなどの場の工夫を行い、子どもたちが自分の課題に合った場を選ぶことができるようにする。
- 学習カードに全体のめあての他に、自分のめあてを書く欄も設け、主体的に取り組めるようにする。
- 掲示資料に、技のポイントだけでなく、場の設定の仕方の例も提示し、児童自身の場の工夫にもつなげられるようにする。

学習過程

時	1	2	3	4	⑤	6	7	8
	オリエンテーション	集合・整列・健康観察・挨拶・準備運動						
		感覚づくりの運動						
	ねらい① 基本的な回転技を身につけよう	ねらい②(挑戦学習) 基本的な倒立技を身につけよう		ねらい③ 取り組む技を選び、組み合わせ練習しよう				発表会
	前転 後転	開脚前転 開脚後転	側方倒立回転		【回転技】 前転 開脚前転 後転 開脚後転 【静止技】 側方倒立回転			
	学習のまとめ・後片付け・次時の予告・整理運動・挨拶							

ストーリーデザイン

- 1 時間目**
 1 学習のねらいと進め方とを知り、単元の見通しをもつ。
 2 準備運動、感覚づくりの運動の行い方を知る。
 3 前転と後転のポイント知る。
- 2、3 時間目**
 1 感覚づくりの運動を行う。
 2 基本的な回転技を身につける。
 ・前転、後転
 ・開脚前転、開脚後転
 3 学習を振り返る。
- 4、5 時間目**
 1 感覚づくりの運動を行う。
 2 側方倒立回転を身につける。
 3 学習を振り返る。
- 6、7 時間目**
 1 感覚づくりの運動を行う。
 2 自分で取り組む技を選び、組み合わせて練習に取り組む。
 3 学習を振り返る。
- 8 時間目**
 1 発表会をする。
 2 単元を通してのまとめをする。

本時の感覚づくりの運動

【ゆりかご⇒肩倒立】
 【かえる倒立⇒頭倒立
 ⇒かえるの足うち】

【手押し車】
 【壁倒立（壁登り倒立）】
 【腕立て横跳び越し】
 【帽子はさみ前転】
 【後転】
 【でき技】
 これまで学習してきたできる技

本時の目標 側方倒立回転ができる。(技能)

準備：マット、ホイッスル、掲示資料、足型・手型

本時の展開

段階	学習内容・活動	指導上の留意点 (○指導◆評価規準△努力を要する児童への手立て)
導入	1 集合・整列・挨拶・健康観察をする。 2 準備運動をする。 3 感覚づくりの運動をする	○素早く集合・整列させ元気よく挨拶させる。 ○健康状態を把握し、服装を整わせる。 ○各運動を正確に行うように声かけをし、よい動きをしている児童や意欲的に運動をしている児童を称賛する。 ○動きのポイントをおさえている児童を称賛し、意欲を高めるとともによい動きをグループや全体に広める。 ○一つ一つの運動をていねいに、目的をもって取り組ませる。
展開	4 本時のねらいを確認する。 側方倒立回転を練習し、できるようにしよう。 5 側方倒立回転の練習に取り組む。 【4人グループで見合い、教え合う活動】 ①試技をする □手型を置く □足型を置く ④足が伸びているか見る 【個人の課題に応じて練習する活動】 ①壁登り逆立ち □川跳び側転 ③手型・足型を利用した練習 □連続で行う	○ねらいを確認するとともに、前時で頑張っていた児童を称賛し意欲を高める。 ○前時のよい動きを紹介し広めるとともに、今日の見合うポイントを伝える。 ○見る視点を絞ることで、苦手な児童をアドバイスしやすいようにし、グループでの対話や学び合いを深められるようにする。 ○先に、足型・手型を用いた練習を行ったあとに、個人の課題に応じた練習も取り入れることで、主体的に取り組めるようにする。 【努力を要する児童への手立て】 △踏み出した足と反対の手が出る ⇒先に手型・足型を置き、足と手の運びを確認させる。 △腰が上がっていない ⇒踏み切りを強くさせ、肩が伸びるように指導する。 【十分満足できる児童への発展的な内容】 ○少し跳ぶように意識しダイナミックさせたり、連続で行わせたりする。
整理	6 後片付けをする。 7 学習カードを記入する。 8 学習のまとめをする。 9 整理運動をする。 10 次時の予告をする。 11 挨拶をする。	○素早く、安全に気を付けて行わせる。 ○今日できるようになったこと、なぜできるようになったかを記入させる。 ○本時の学習課題のふり返しを行う。 ○一つ一つの動きを丁寧に行わせる。 ○次時の活動内容を知らせ、意欲化を図る。 ○気持ちの良い挨拶で学習を終わらせる。

◆側方倒立回転ができる。【技能】

主体的学び
 児童が難しいと思っている側方倒立回転の技のポイントを見えるところに掲示したり、マットに直線を引きたりすることで、一人一人が主体的に学べるようにする。

対話的学び
 側方倒立回転を見合う際に、手型・足型を使うことで、見合うポイントをしぼり、技能差に関係なく事実を伝えることができるようにし、児童が対話的に課題解決に取り組めるようにする。

深い学び
 前時の学習の際に、次時のめあてを児童一人一人に考えるようにさせる。また、本時の振り返りを学習カードへ記述させることで、自己の向上や教え合ったことで技能が伸びたことに気付かせ、もっと練習に取り組むたい、もっと協力して取り組みたいと感じられるようにする。

今後の展開

6、7 時間目
 ◎自分で取り組む技を選び、組み合わせて練習に取り組む。
 【身に付けさせたい力】
 ・自分の力にあった技を選んでいる。
 ・技に応じた練習の場や練習方法を選んでいる。

8 時間目
 ◎できるようになった技を発表する。
 【身に付けさせたい技能】
 ・回転系と技と技巧系の技を組み合わせ発表すること。

次学年との接続
 学習する内容は以下の通りである。
 【例示してある技】
 ・前転 ・やさしい場での開脚前転
 ・後転 ・開脚後転
 ☆補助倒立ブリッジ ・側方倒立回転
 ☆首はね起き
 ・壁倒立 ・頭倒立

5・6年との接続
 学習する内容は以下の通りである。
 【例示してある技】
 ・開脚前転 ・補助倒立前転
 ・伸膝後転 ・倒立ブリッジ
 ・ロングアート ・頭はね起き
 ・補助倒立 ・技の組み合わせ

願う子供の姿

・マット運動のきまりを守り、グループで協力して、自分の試技を見てもらったり、友達にアドバイスをしたりしながら、技の練習をしようとしている姿。
 ・自分の力に合った技の動き方やポイントを知り、自分の力にあった課題を選んでいる姿。
 ・基本的な回転技、倒立回転技を身に付けようと、練習に進んで取り組もうとしている姿。